

地震発生から避難までの流れ

地震発生

沿岸部

揺れから身を守る

安全確保・避難経路の確保

揺れがおさまったら、ガスや火を止め、安全確保。建物の出入口や避難経路の確保。

避難行動

非常持出品を持って、避難行動。

津波の到来に備えて直ちに海から離れ、高い避難場所に避難してください。

避難場所で待機

大津波警報・津波警報などが解除され、安全が確保できるまで、高い避難場所で待機

津波避難タワーで長時間待機することを考えて、非常持出品を用意しましょう。

内陸部

揺れから身を守る

安全確保・避難経路の確保

揺れがおさまったら、ガスや火を止め、安全確保。建物の出入口や避難経路の確保。

避難行動

家族や近所の人と声をかけ合って避難しましょう。車での避難は、交通事故や渋滞などのトラブルにつながる可能性も。車を置いて避難する場合は、車を路肩に寄せ、鍵を付けたままにしましょう。

避難場所で待機

避難場所(公園や広場、学校のグラウンドなど)に避難し、安全が確認できるまで待機

建物の倒壊、看板等の落下から身を守りましょう。

地震発生中↓揺れがおさまる

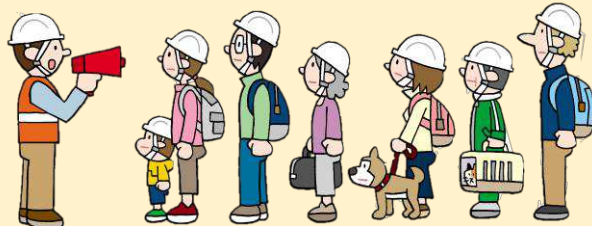
数分後↓数十分
できるだけ早く

津波警報発令中

地域の安否確認場所で【安否確認】

地域ごとに決まっている安否確認場所で
「わが家の安否確認カード」を提出し、**家族の安否を報告**

安否不明の家族の詳細を伝えることで、その後の救助・捜索活動がスムーズに進むことがあります。



救出活動や情報共有



安否確認情報をもとに、地域で協力し、
捜索や救出救助活動を実施しましょう。
また、自主防災会は、地域内の被害状況
や安否情報を市に報告。

自宅の被災状況を確認

自宅に帰り、自宅が住める状態かどうか
を判断する。可能な限り、写真に残して
おくことを推奨です。

行政は順次、住家被害認定調査や応急危険
度判定を行います。



①在宅避難

住み慣れた家でプ
ライバシーも守られ
る安心生活



②縁故先・親戚避難

親戚・知人宅に避難可
能な場合は、身を寄せ
させてもらうのも◎



③避難所

被災で生活場所を
失った人が、一時的に
生活する場所



被災後は、ライフラインが復旧し、元の生活を取り戻すまで、慣れない避難生活を送ることとなります。できるだけストレスが少なく、衛生的な暮らしができるようにするには、日頃の備えが重要です。

安全が確保されたら

津波警報解除など

救出救助活動

自宅の確認

避難生活